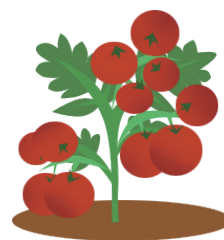


第4章

計画の推進に向けた施策の展開



第4章 計画の推進に向けた施策の展開



1 前期施策の取組結果

2017年度から2020年度までの前期計画期間における取り組みの進捗について、以下のとおり評価を行いました。

基本目標	施策	指標数	評価				
			◎	○	△	×	—
Ⅰ．意欲的農業者が安心して生産できる環境づくり	(1) 認定農業者・認定新規就農者への支援	4	0	2	1	1	0
	(2) 新たな担い手の育成・支援	4	1	1	1	1	0
	(3) 安全で安心な農産物の生産支援	2	2	0	0	0	0
Ⅱ．都市農地の保全と活用による多面的機能の発揮	(1) 遊休農地の解消	4	0	0	4	0	0
	(2) 市街化区域農地の維持・活用	2	1	1	0	0	0
	(3) 農地が持つ多面的機能の発揮	3	0	2	0	0	1
Ⅲ．立地を活かした地産地消の推進	(1) ブランド化の推進強化	2	0	1	1	0	0
	(2) 市内産農産物の流通促進	2	0	2	0	0	0
Ⅳ．多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上	(1) 多様な農にふれあう機会の創出	4	0	4	0	0	0
	(2) 町田農業の魅力の伝達	3	1	0	2	0	0
	計	30	5	13	9	2	1

【進捗評価の考え方】

計画当初に設定したすべての目標値に対して、実績値に応じて『◎・○・△・×』の4段階評価を行いました。

◎・・・「計画以上」 ○・・・「計画どおり」 △・・・「計画どおり進んでいない」
 ×・・・「未着手」 —・・・「事業終了」

- ・ 定量的な成果指標が設定されている場合 ⇒ 目標数値と実績数値との差や達成割合により評価
- ・ 定性的な成果指標が設定されている場合 ⇒ 施策の方向性を踏まえて達成具合を評価

2 前期重点施策に関する評価

町田市の農業の課題や前期取組の結果を踏まえ、**前期重点施策に関する評価**を以下のとおり整理しました。

基本目標	施策	評価
<p>I. 意欲的農業者が安心して生産できる環境づくり</p>	<p>認定農業者・認定新規就農者への支援</p>	<p>農業者の高齢化・後継者不足等により、担い手が減少しており、認定農業者等の大幅な増加は困難となっています。既存農業者への着実な支援や、新たな担い手の育成及び営農定着の達成に向けて、継続して施策を展開していきます。</p>
	<p>新たな担い手の育成・支援</p>	<p>農業研修事業における研修修了数の指標はおおむね達成されていますが、農業経営の実践機会が少ないことや、あっせんできる農地（抜根等初期投資の必要がない農地）が減少傾向であることが影響し、就農率が低迷しています。</p> <p>研修修了後に確実に営農が開始できるよう、事業内容の見直しを行い、後期重点事業として推進していきます。</p>
<p>II. 都市農地の保全と活用による多面的機能の発揮</p>	<p>遊休農地の解消</p>	<p>農地利用集積円滑化事業は、町田市が都内でも先駆的に始めた事業であり、一定の成果も出ております。しかしながら、農林業センサスにもあったとおり、経営耕地面積は減少傾向となっています。</p> <p>農地の遊休化を食い止めるために、本事業に加え、農地の再生と保全活用に関する取り組みを後期重点事業として推進していきます。</p>

基本目標	施策	評価
Ⅲ. 立地を活かした地産地消の推進	ブランド化の推進強化	『まち☆ベジ』の認知度は上昇傾向にあるものの、市民への周知はまだまだ不足しています。市内産の農産物が「安心・安全・高鮮度」であるということが、当たり前の認識となっていくよう、前期から引き続きSNSや広告等の多様な媒体を活用して、認知度の向上に向けた施策を展開していきます。
	市内産農産物の流通促進	<p>市内産農産物流通促進事業において、まち☆ベジグルメ店については、継続して新規登録店を増やすために取り組んでいきます。</p> <p>また、社会情勢の変化に伴い、食に関する様々な形の流通インフラの需給が増えているのと同時に、信頼のおける地場産農産物に注目が集まっています。</p> <p>新しい生活様式に即しつつ、地産地消を推進していくために、市内産農産物の流通体制の構築を後期重点事業として推進していきます。</p>
Ⅳ. 多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上	薬師池公園四季彩の杜ゲートハウス・西園事業	町田薬師池公園四季彩の杜西園については、2020年4月に開園し、多くの市民が体験農園や農産物直売所を訪れています。周辺施設の魅力向上を含め、農と気軽に触れ合えるような環境づくりを引き続き推進していきます。

なお、重点施策以外の施策については、前期取組結果による課題を踏まえ、後期取組内容に反映しています。

3 後期施策及び取組内容の修正

■表の見方解説

基本目標Ⅰ 意欲的農業者が安心して生産できる環境づくり



施策	①計画の方向性	②SDGs (持続可能な開発目標)との関連性
	後期	
(1) ○○○○の▲▲	拡充	 

(1) 認定農業者・認定新規就農者への支援

③事業名	○○△△事業【継続・新規・重点】		
④事業内容			
⑤修正点	○○△△を『□□□』へ修正。		
⑥期間	⑦指標	⑧ 2020 年度末実績	⑨目標値
後期	○○数	—	50名(○名/年)
	△△数	—	50名(△名/年)

①計画の方向性…………… 施策ごとの後期計画の方向について記載しています。

②SDGs との関連性……… 主として関連するSDGsのゴールを掲載しています。

③事業名…………… 担当部署が取り組む事業名称

④事業内容…………… 前期の取組結果を踏まえた内容及び新規取組を含めた内容

⑤修正点…………… 前期事業内容からの修正点

⑥期間…………… 後期：2022年度～2026年度

⑦指標…………… 当該事業の進捗を確認するための指標







⑧2020年度末実績……… 新規指標を設定した事業については、2020年度末実績は記載しておりません。

⑨目標値…………… 2026年度目標値

※新規及び重点事業は別途スケジュールを追記しています。

基本目標Ⅰ 意欲的農業者が安心して生産できる環境づくり



施策	計画の方向性		SDGs（持続可能な開発目標）との関連性
	前期	後期	
(1) 認定農業者・認定新規就農者への支援	継続	継続	 
(2) 新たな担い手の育成・支援	継続	拡充	  
(3) 安全で安心な農産物の生産支援	継続	継続	  

・施策（２）について、農業研修事業を重点推進事業として決めました。また、「農業のデジタル化の推進事業」を新規追加事業として決めました。

(1) 認定農業者・認定新規就農者への支援

事業名	①認定農業者・認定新規就農者事業【継続】		
事業内容	都市農業を将来に渡って担う農業者や新規就農者を認定する業務であり、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想で定められた目標を達成するための支援として、施設整備や研修会等を実施することで、農業者の生産意欲向上を図ります。		
修正点	担い手の高齢化・後継者不足等の減少傾向を考慮し、指標を「認定農業者数（時点）」及び「認定新規就農者数（累計）」から、「新規認定数」へ修正。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	認定農業者の新規認定数	— (新規指標のため)	10名(2名/年)
	認定新規就農者の新規認定数	— (新規指標のため)	5名(1名/年)

事業名	②農業振興補助事業【継続】		
事業内容	農業者が創意工夫を発揮し経営の改善及び合理化を目指した事業に対し補助を行います。		
修正点	施策との整合性を図るため、指標を「認定新規就農者の事業実施件数」から、「認定農業者及び認定新規就農者の事業実施件数」へ修正。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	認定農業者及び認定新規就農者の事業実施件数	— (新規指標のため)	40件(8件/年)

事業名	③都市農業振興施設整備事業(旧事業名：都市農業活性化支援事業)【継続】		
事業内容	認定農業者等が収益性の高い農業経営を行う上で必要な施設整備支援を行うことで、経営力の向上、都市農地の保全及び都市農業が持つ多面的機能の更なる発揮を進めます。		
修正点	東京都の事業名変更に伴い、市の事業名を修正。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	実施主体数	1件	6件(1件/年)

事業名	④新規就農者定着支援事業(旧事業名：都市農業活性化支援事業)【継続】		
事業内容	認定新規就農者の、就農に必要な施設整備や機械導入等を支援することで、早期に農業経営を安定させることを目指します。		
修正点	東京都の事業名変更に伴い、市の事業名を修正。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	実施主体数	0件	5件(1件/年)

事業名	⑤農業次世代人材投資事業(旧事業名：青年就農給付金事業)【継続】		
事業内容	次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、就農直後の経営確立を支援する資金を交付し、市内での農業への定着を図ります。		
修正点	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の事業名変更に伴い、市の事業名を修正。 事業内容に合わせ、指標を「青年就農給付金受給者の定着数」から「新規交付対象者数」に修正。 		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	新規交付対象者数	— (新規指標のため)	5件(1件/年)

(2) 新たな担い手の育成・支援

事業名	①農業研修事業【重点】		
事業内容	営農技術のみならず、就農に必要な農業経営のスキルや、農地貸借等の農地に関する法知識も習得できるようなカリキュラムを新たに整備することで、就農希望者の育成に特化した研修事業を実施し、確実な新規就農者の輩出を目指します。		
修正点	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容を修正。 ・事業内容に合わせ、指標を「研修修了者数」から「新規就農した人数」に修正。 		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	新規就農した人数	— (新規指標のため)	2022年度～2024年度 3名(1名/年) 2025年度～2026年度 4名(2名/年)

【スケジュール】



【農業研修事業（開講式）】



【研修農場収穫体験】

事業名	②援農ボランティア育成事業【継続】		
事業内容	高齢化、後継者不足等の理由により担い手が不足している農家を支援するため、野菜の収穫等の農作業を行う援農ボランティアを育成します。		
修正点	基本目標Ⅰ（２）①農業研修事業の内容変更に伴い、指標を独立。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	援農ボランティア修了者数	191名	239名（8名／年）

事業名	③農業のデジタル化の推進【新規】		
事業内容	農業者の生産現場や流通現場において、スマートフォン等電子機器を用いた農業データの活用や、インターネットを活用した情報発信・販路拡大への支援を行うとともに、行政手続のデジタル化を推進することで、効率的な都市型農業経営の実現を目指します。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	デジタル技術の導入	— （新規指標のため）	導入

【スケジュール】

事業内容	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
農業のデジタル化の推進	導入検討		導入		

(3) 安全で安心な農産物の生産支援

事業名	①堆肥流通促進事業【継続】		
事業内容	農産物を生産する市内農業者等に対し、市内畜産農家が生産する堆肥を購入する経費を補助することにより、市内産堆肥の流通促進を図ります。安心・安全で環境に優しい農産物の生産に取り組む農業者を中心に、事業の活用を促していきます。		
修正点	施策との整合性を図るため、指標を「エコ認証取得者数」から「市内産堆肥の取引量」に修正。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	市内産堆肥の取引量	— (新規指標のため)	915 t (183 t / 年)


事業名	②農作物獣害防止対策事業【継続】		
事業内容	増加する加害獣による農作物への被害を防止するため、関係団体と連携して農地等へ箱罾やくくり罾を設置し、加害獣の捕獲・駆除を行い、被害の減少を図ります。		
修正点	侵入防止柵の効果検証において、一定の防除効果が確認できたため、指標を「加害獣侵入防止柵設置件数」から、「加害獣の捕獲数」に修正。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	加害獣の捕獲数	— (新規指標のため)	410 頭 (82 頭 / 年)



【加害獣侵入防止柵検証事業】

基本目標Ⅱ 都市農地の保全と活用による多面的機能の発揮



施策	計画の方向性		SDGs（持続可能な開発目標）との関連性
	前期	後期	
(1) 遊休農地の解消	継続	継続	 
(2) 市街化区域の農地の維持・活用	継続	拡充	 
(3) 農地が持つ多面的機能の発揮	継続	拡充	  

- ・施策（1）について、農地再生事業を重点推進事業として決めました。
- ・施策（2）について、都市農地貸借円滑化事業を新規追加事業として決めました。
- ・施策（3）について、農福連携事業を新規追加事業として決めました。

(1) 遊休農地の解消

事業名	①農地再生事業【重点】		
事業内容	耕作が行われていない農地を整備・再生することで、将来に渡る持続的な有効活用を図ります。また、再生した農地については、農業研修修了生の新規就農の用途としても活用していきます。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	農地整備面積	— (新規指標のため)	1ha (10,000㎡、2026年度までの累計)

【スケジュール】

事業内容	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
農地再生事業	再生農地の選定	農地の整備・再生			
			再生農地の活用		
					農業研修修了生による活用

事業名	②農地あっせん事業（旧事業名：農地利用集積円滑化事業）【継続】		
事業内容	【市街化調整区域】 遊休農地の解消を図るため、農地バンク・担い手バンクの登録を行い、農地貸借のマッチングを実施します。		
修正点	・ 法制度の改正に伴い、事業名を「農地あっせん事業」に修正。 ・ 面積基準での見通しの予測が困難なため、指標を「農地あっせん面積」から「新規農地あっせん成立件数」に修正。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	新規農地あっせん成立件数	— (新規指標のため)	15件(3件/年)

事業名	③農地パトロール事業【継続】		
事業内容	農地の利用状況の改善を図るため、営農されるべき農地について十分な営農がされていない場合に、適正な管理がなされるように指導します。また、耕作できない農地については、農地バンクへの登録を促進します。		
修正点	事業の目的に合わせ、指標を「農地バンク登録面積」から「農地の利用状況が改善した割合」に修正。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	農地の利用状況が改善した割合	— (新規指標のため)	100%



(2) 市街化区域の農地の維持・活用

事業名	①都市農地貸借円滑化事業【新規】		
事業内容	2018年9月に施行された「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」に基づき、都市農地の保全及び活用を推進するため、町田市農業協同組合と協力して生産緑地の貸借支援を実施します。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	生産緑地貸借新規成立件数	— (新規指標のため)	15件(3件/年)

【スケジュール】

事業内容	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
都市農地貸借 円滑化事業	生産緑地所有者と耕作希望者のマッチング支援の実施				
		事業検証・ 見直し		事業検証・ 見直し	

(3) 農地がもつ多面的機能の発揮

事業名	①災害時協力農地・井戸協定事業【継続】		
事業内容	災害時の一時避難場所・応急対策場所としての活用及び井戸水の給水機能を維持するため、協定の継続を目指します。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	①災害時協力農地登録面積	① 125,253.51㎡	協定継続
	②災害時協力井戸件数	② 273件	

事業名	②農福連携事業【新規】		
事業内容	農業と福祉の分野が連携し、農業分野での活動を支援することで、労働意欲の向上へ寄与するとともに、地域の農業者等とのコミュニティ形成を支援し、生きがいづくりの場を生み出します。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	事業化	事業化検討	事業化

【スケジュール】

事業内容	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
農福連携事業	事業者へのヒアリング	事業化検討	試験実施		事業化





基本目標Ⅲ 立地を活かした地産地消の推進

施策	計画の方向性	SDGs（持続可能な開発目標）との関連性
	後期	
(1) ブランド力の向上	継続	
(2) 市内産農産物の流通促進	拡充	

- ・(1)の施策名について、修正しました。
- ・施策(2)について、「学校給食食材供給事業(中学校)」を新規追加事業として決めました。また、「市内産農産物流通促進事業」を重点推進事業として決めました。

(1) ブランド力の向上

事業名	①まち☆ベジ推進事業【継続】		
事業内容	<p>町田産農産物のシンボルマークである『まち☆ベジマーク』をPRすることで、安心・安全・高鮮度である市内産農産物の周知を図るとともに、ウェブ・SNS等を活用した農業情報の発信や、子ども向け農業情報誌の配布、農業体験等を通じて、『まち☆ベジマーク』の認知度の向上を図ります。</p> <p>また、より多くの市民にまち☆ベジを知ってもらい、食べてもらう機会を設けるため、市内産農産物を使う飲食店や加工品販売店を『まち☆ベジグルメ店』として登録し、登録店を増やします。</p>		
修正点	まち☆ベジ使用店に関する記載を(2)②市内産農産物流通促進事業から移行。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	①まち☆ベジマークの認知度	※ 14.1%	30.0% (市内小・中学校へのアンケート実施を予定)
	②まち☆ベジグルメ店新規登録店舗数	— (新規指標のため)	10店舗(2店舗/年)

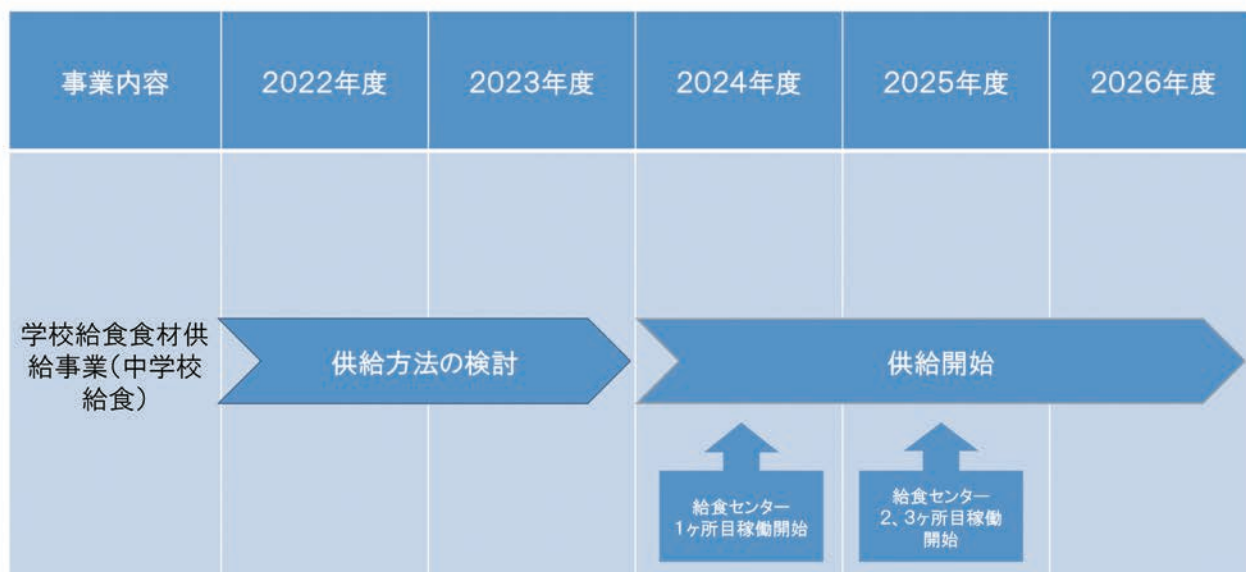
※ 2017年度実績（出典：食育推進に関する市民アンケート調査結果）

(2) 市内産農産物の流通促進

事業名	①学校給食食材供給事業（小学校）【継続】		
事業内容	小学校と農業者をつなぎ、給食への安心安全な市内産農産物の供給量の増加と食育の推進を図ります。		
修正点	前期目標を概ね達成したため、指標を「農産物重量ベース上位 10 品目に占める市内産の割合」から「学校給食食材供給事業（市内産農産物を学校給食の食材として供給した農業者に対して、補助金を交付する制度）の継続実施」へ修正。		
期間	指標	2020 年度末実績	目標値
後期	学校給食食材供給事業の継続実施	— (新規指標のため)	継続実施

事業名	②学校給食食材供給事業（中学校）【新規】		
事業内容	2024 年度からの中学校全員給食・中学校給食センター方式の導入に伴い、市内産農産物の供給方法について検討し、活用を進めます。（市内3ヶ所に整備）		
期間	指標	2020 年度末実績	目標値
後期	【中学校給食】 市内産農産物の供給開始	供給方法の検討	2024 年度 1ヶ所目供給開始 2025 年度 2、3ヶ所目供給開始

【スケジュール】



事業名	③市内産農産物流通促進事業【重点】		
事業内容	市内産農産物の地産地消推進及び市民の利便性向上のために、既存の生鮮食品ECプラットフォームを拡大し、安定的な農産物の域内流通促進を図ります。また、多様な販売チャネルを比較検討し、導入に向けた支援を行います。		
修正点	<ul style="list-style-type: none"> ・まち☆ベジ使用登録店舗数に関する記載を（１）①まち☆ベジ推進事業へ移行。 ・後期指標を新たに設定。 		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	生鮮宅配ボックスの設置箇所	— (新規指標のため)	30箇所(2026年度までの累計)

【スケジュール】

事業内容	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
市内産農産物流通促進事業	生鮮宅配ボックスの増設・出荷登録者拡充・PR活動				
	販売チャネルの比較検討			成果検証	事業見直し



【ECプラットフォームを活用した生鮮宅配ボックス】

基本目標Ⅳ 多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上



施策	計画の方向性	SDGs（持続可能な開発目標）との関連性
	前期	
(1) 多様な農にふれあう機会の創出	継続	  
(2) 町田農業の魅力の伝達	継続	 

・施策について、変更はありません。

(1) 多様な農にふれあう機会の創出

事業名	①薬師池公園四季彩の杜事業【継続】		
事業内容	四季彩の杜西園直売所を広くPRすることで、市民が地場産農産物を購入できる機会を増やすとともに、フットパス等の歩行系レクリエーションネットワークや体験農園を活用し、農にふれあう機会を創出します。		
修正点	薬師池公園四季彩の杜西園事業と北園事業を統合。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	農にふれあう機会の創出	—	継続実施



【薬師池公園四季彩の杜西園 農産物直売所】

事業名	②農業体験事業【継続】		
事業内容	市民農園、体験農園及び収穫体験農園（観光農園）や農家開設型市民農園等、さまざまな農業体験を市民にPRし、利用者募集などの広報を行います。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	農業体験事業の実施農園数	34園	37園

事業名	③食育体験事業【継続】		
事業内容	農業と商業の協働による食育の取組を行います。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	食育体験の実施	実施	実施

事業名	④七国山景観作物協定事業（四季彩の杜北園事業）【継続】		
事業内容	来訪者に農の風景を楽しんでもらえるよう地元の農家組合と協定を結び、七国山地区で1年を通して景観作物（そば・菜の花・ひまわり等）を栽培します。収穫物は加工・販売を行います。薬師池公園四季彩の杜北園開園の後にも引き続き美しい農の風景を維持し、多くの市民が味わえるような加工品等を提供します。		
修正点	基本目標Ⅱ（3）から移行。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	1年を通して景観作物を栽培し、農の風景を維持する	事業継続	事業継続



【そばの花】



【菜の花】



(2) 町田農業の魅力伝達

事業名	①農業祭事業【継続】		
事業内容	農業者の生産意欲の高揚と、都市農業の重要性の認識と理解を深めることなどを目的に農業祭を実施し、市の農業を積極的にPRするとともに、商工業者との連携を通して農業の活性化に繋がります。		
期間	指標	2019年度末実績(※)	目標値
後期	来場者数	18,126人	20,000人

※ 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止。



【まち☆ベジ花マーク】



【野菜宝舟】



【まち☆ベジ販売】



【稲わら細工体験】

事業名	②ふるさと農具館事業【継続】		
事業内容	市の農業の歴史及び農家の生活様式を紹介し、市民の農業に関する知識の普及と、関心の向上を図る施設として活用します。併せて、市内小学生の社会科見学の場として活用することで、農業をより身近に感じてもらう機会を提供します。また、町田薬師池公園四季彩の杜の計画に合わせて、施設の在り方を検討します。		
修正点	事業内容を修正。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	年間入館者数	13,722人	22,099人 (前年比10%増、2026年度時点)



【ふるさと農具館】



【古い農具を常設展示】

事業名	③七国山ファーマーズセンター事業【継続】		
事業内容	自然や農業とふれあうことのできる拠点施設として活用します。また、町田薬師池公園四季彩の杜の計画に合わせて、施設の在り方を検討します。		
期間	指標	2020年度末実績	目標値
後期	年間入館者数	5,113人	8,234人 (前年比10%増、2026年度時点)



【七国山ファーマーズセンター】



【米作り農業体験（収穫祭：餅つきの様子）】